戦争法強行

けっして忘れない！

立憲主義を取り戻すまで

「安倍暴走政治」に5000人の怒り結集

9割の憲法学者が違憲と表明

9・19総がかり集会のパレードで、御堂筋を「憲法改悪ストップ」とアピール

9.19おおさか総がかり集会

し、国民の8割が説明不足と批判の中、安倍政権による戦争法の強行から1年となった9月19日、「改憲ゆるすな！戦争法を廃止へ！9・19おおさか総がかり集会」が大阪市のうつぼ公園でおこなわれました。小雨まじりの中、公園からあふれる約5000人が参加し、大阪自治労連各単組の仲間も大勢参加しました。

野党共闘をすすめ 戦争法の廃止に全力を

集会では民進党、日本共産党、社民党、生活の党の4野党が登壇し、10月26日からの臨時国会に向けて、野党の共闘をすすめ戦争法廃止に全力をあげると訴えがありました。

続いてママの会、関西市民連合、安保法制に反対する学者の会など各分野からのスピーチがあり、参加者全員で「憲法改悪STOP！」のポテッカーをかかげた後、「戦争法の発動とめよう」「みんなの力で改憲とめよう」などコールしながら御堂筋をパレードしアピールしました。信号待ちをしていた若者もコールに合わせて声を上げる姿も見られました。

交流しながら課題に向かっていこう！

保育部会総会

9月11日に保育部会は大阪グリーン会館で第27回定期総会を開催しました。各単組からは、民営化や幼保一元化、待機児童の問題などさまざまな課題について発言が続きました。公的保育制度の拡充を求め、保護者や住民と力を合わせて取り組みをすすめていくことが確認されました。

命を守る共同広げる

医療部会定期総会

9月30日に医療部会第28回定期総会が開催され、府民の命を守るために各病院の組合組織を強く大きくしていくこと、諸団体と共同してたたかう方針を確立しました。

今月のキーワード

待機児２年連続増

今春、「保育園落ちた！」のブログによって待機児問題が緊急に解決しなければならない問題となったにもかかわらず、今年４月に認可保育所などを希望したのに入れなかった子どもの数が２年連続で増加しました。合計約９万人にのぼる深刻な事態です。しかし、安倍内閣は認可保育所の拡充には背を向け、保育基準の緩和で子どもを施設に詰めこむなど、保育の質を低下させて解決しようとしています。子どもの健全な発達と成長を保障するためには、国や自治体が率先して公立保育所をつくることや、国有地の無償提供などできることをやりつくし、認可保育所の増設を大原則にして待機児の解消にあたることがなにより必要です。

府立成人病センターの移転による雇い止めは許さない

非常勤職員の生活と誇りを踏みにじるな！

10月３日の成人病センター玄関前での宣伝

大阪府立成人病センターの森ノ宮から府庁南側への移転を機に、外来クラーク（医療事務）や受付業務への人材派遣導入や委託拡大で、現在の非常勤職員の雇い止め・解雇が進められようとしています。

10月5日に大阪府職労が開催した懇談会でも「正規職員と違って勉強会も何もないのに、『できない』と決めつけて人材派遣に頼るのはおかしい。より良い病院にするためには、非常勤職員のスキルアップもすべき」「以前は外来クラークも委託だったが、その後直雇用に切り替わっているのは、委託ではできないからではないのか」など、患者・利用者と病院のために仕事をしてきた誇りを踏みにじる病院当局のやりかたに、仲間から怒りの声が上がっています。

大阪府職労はこの秋のたたかいの中で、非常勤職員の仲間の雇用確保と処遇改善に向けて全力をあげていきます。

住民のくらしを守る自治体をめざして
中核市問題連続学習会①
中核市移行に向けて―今後の自治体の役割と課題

中核市への移行で住民サービスをどう保障するのか？

連続学習会を開催

――第１回は寝屋川市で

中核市に移行することでの問題点などを改めて学習しようと、連続学習会の第1回目が9月17日に寝屋川市で開催され、講師の梶哲教大阪学院大学准教授から中核市の地方自治法での位置づけなどを分かりやすく話していただきました。中核市に移行予定の自治体の職員や市職労、府職労の仲間、市会議員が参加しました。

中核市になり、移譲する業務の多くは保健所業務だということがわかりました。参加者から、財源の保障や住民サービスがどうなるのかなど、さまざまな疑問や不安の声が出されました。講師からは「住民サービスなど街づくりの中で、住民が決定していくもので、どのような保健所にしていくかは、住民の声を聞きながら行政がすすめていくべき」と話しました。

次回は、要望が多数あった「保健所ではどんな業務があるのか」「それをどう引き継いでいくのか」をポイントに学習をすすめていくこととしています。

今月のキーワード

ベンゼン

分子式は C_6H_6。分子量 78.11 の最も単純な芳香族炭化水素で、原油に含まれており、石油化学における基礎的化合物の一つです。ベンゼンは無色で、甘い芳香を持つ引火性の高い物質で、炭素の豊富な素材が不完全燃焼すると生産され、自然界では火山噴火や森林火災でも発生します。都市ガス製造過程でもベンゼンが生成されます。このため、都市ガスを製造した工場跡地において、ベンゼンなどによる土壌汚染や地下水汚染が起こることがあります。東京の築地市場の移転問題では、東京ガス工場跡地の豊洲での環境汚染が以前から指摘され、盛り土がされていないなど消費者や市場関係者も納得できない問題点が明るみに出ています。